

西濃農林事務所の普及活動状況

平成26年6月27日現在

今月の重点活動

■ 水稲 機能性成分米 LGC ソフトの実証ほ設置

県が今年から取り組む機能性成分米ビジネスモデル構築支援事業の一環として、有望品種である低グルテリン米(体内に吸収されやすいタンパク質であるグルテリン含有量が少ない米であり、タンパク質摂取量が制限されている腎臓病患者の方への利用が期待されている)「LGC ソフト」の栽培及び実需者調査が計画されている。

養老町の生産者が県の新聞発表記事を見て栽培を希望し、県内2カ所での実証ほ場のうちの1ヶ所が養老町で設置されることとなった。

5月27日に田植えが実施され(13a)、農業普及課としては今後、生育・収量調査を実施し、この品種の特性を把握していく予定である。



【田植えの様子】

活力ある新産地づくり

■ ブロッコリー ブロッコリー新規栽培者勧誘

ブロッコリー新規栽培者を勧誘するため、にしみのブロッコリーの取組概要及び経営収支などをまとめたパンフレットを作成し、5月28日の小麦現地検討会参加者約200人に配布した。

西濃管内のブロッコリー生産者はここ数年微増しており、昨年からは管内全市町で生産されている。26年度は大垣市及び神戸町でそれぞれ1農家が協議会に加入して新規栽培に取り組むことになっている。今後、新規栽培農家への説明会を随時開催するとともに、栽培年数が浅く技術が確立していない農家に対して重点的に支援を行っていく。



【新規勧誘パンフレット】

売れる農畜産物づくり

■ 小麦 良品質小麦の安定生産

小麦の適期収穫のため、JAにしみの各営農経済センターは小麦生産者を集め「小麦施設稼働会議」を開催した。(大垣 6/4、海津 6/2、養老 6/2、不破 6/3、安八 6/5、神戸 6/6)

JAと農業普及課は会議に先立ち圃場を巡回し、現場の小麦水分を調査した。会議では生産者に対し、これまでの生育経過と適期収穫、計画作業を指導した。

実際の収穫は「イワイノダイチ」で6/3~16、「農林61号」で6/9~23、「さとのそら」が6/9~12となった。

作柄については、5月下旬以降に高温・干ばつ気味であったため、葉の枯れ上がりが高く、登熟期の後半に急激な子実水分の低下が見られ、昨年と同様に成熟期はやや早めとなった。

収量は、「イワイノダイチ」が8俵、「さとのそら」が7俵、「農林61号」が6俵程度と見られ、1等調整を予定している。



【適期収穫の現地検討】



【小麦収穫の様子】

■甘長ピーマン **害虫防除試験を実施中**

アブラムシおよびアザミウマの多発生や殺虫剤の感受性低下により、現地では害虫対策が問題となっている。そのため、部会役員のは場において赤色ネットや新規殺虫剤を用いた防除に関する展示ほを設置して試験を実施中である。

また、野外でアザミウマ類の発生が増加しているため、出荷場等へ注意喚起および防除に関する資料の掲示および巡回において注意喚起を行った。

■みかん **南濃みかん部会再発足**

南濃のみかん部会は過去に任意部会として設立されていたが、ここ数年は事実上活動を停止していた。それに対し、適正な部会活動を行うため、改めて6月14日に「南濃みかん部会」として規約等を整備したうえで再発足されることになった。

農業普及課では発足にあたり、記念の栽培研修会を開催し、農薬の適正な使用方法を指導した。

戦略的な流通・販売

■農産加工グループ **安八町農産加工運営委員会活動総会の開催**

5月27日安八町農産加工運営委員会の総会が開催され、25年度活動実績・収支決算、26年度活動計画・収支予算案が承認され、来賓として、町長及び農業普及課長が招かれた。総会后、漬物・梅・薬草部会がそれぞれ手掛ける商品の紹介を兼ねた手作りの食事が振る舞われた。梅・薬草部会においては、今年度新たな商品づくりの試作に取り組む。

H26 開発品目 梅部会：ハチミツ梅
薬草部会：梅クッキー、ほうれんそうケーキ

多様な担い手の育成・確保

■いちご若手生産者 **西濃地域若手いちご生産者の会の設立**

管内の若手生産者（40才代以下）は各部会に2名ほどと少なく、小規模の地域部会では特に生産技術情報の収集がしにくいいため、他部会の若手生産者と交流をしたいという声があった。

このため、農業普及課から各部会生産者に声掛けを行ったところ、6月18日、西濃地域のいちご若手生産者の有志7名が集まり「西濃地域若手いちご生産者の会」を設立することとなった。今後は、会員相互の視察などを行い、情報交換を図っていく。また、7月には、岐阜管内のいちご若手生産者との交流会を実施する。農業普及課は、今後も若手の会の自発的な活動を支援していく。

■土地利用型経営体 **営農組織の法人化支援**

神戸町で任意営農組合として地域水田を担ってきた南方営農組合は、5月30日に農事組合法人南方ファームを設立した。

今後は、構成員62名で集落営農で取り組んできた水稻＋小麦＋大豆に野菜を経営作目に加えてさらなる経営向上を目指す計画である。

農業普及課は経営改善計画策定支援等、法人としての活動を支援していく。

県民みんなで育む農業・農村

■食農教育支援 **大垣市で田植え体験学習支援**

5月24日大垣市上石津町時地区、6月12日大垣市墨俣町の水田で田植え体験学習が実施された。上石津では地域の担い手組織、墨俣では認定農業者が中心となりすすめられ、小学校、JAにしみの、大垣市、西濃農林事務所等（上石津の場合ユニが主催）関係機関も連携して小学生の田植え作業をサポートした。



【上石津の田植え体験】



【墨俣での食育授業】